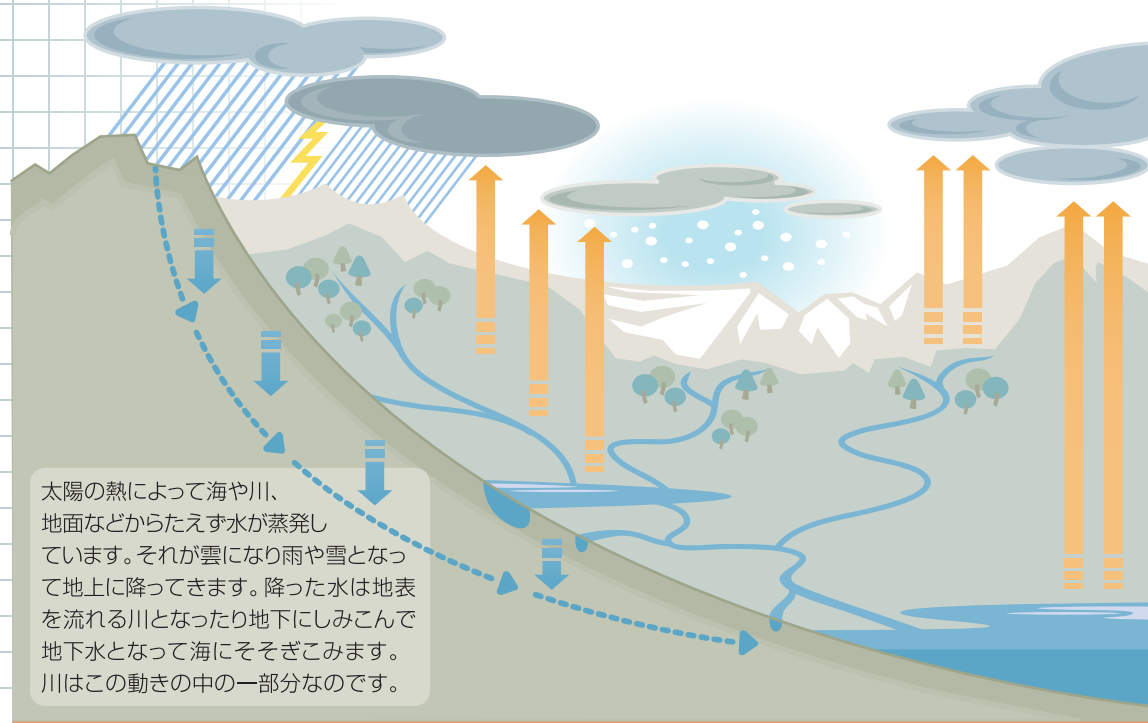


# 「川」って どんなところ？

「日本には三万本の川がある」

とくちょう  
**特徴**

「川」は私たちがくらす村や町にもある身近な自然です。川の自然の特徴は、いくつかあります。ひとつは、山と海をつないでいるということです。流れは、水はもちろん、砂や土、水の中に溶けるものを運びます。それは、生き物にとっても大切な通り道であり、すみかです。木の葉や種・実が運ばれます。動物の中には、川と海との間を行ったり来たりするものがたくさんいます。もう一つは、自然の変化が激しいということです。大きな洪水が川らしい自然を保っているとも言えます。上流と中流、下流とでは、川の流れ方や自然のようすもずいぶん違います。そんな川と人間は昔からさまざまなつきあいをしてきました。生きていくのに必要な水や食べ物を得たり、川を使って人やものを運ぶという恩恵もあり、また洪水との戦いというつきあいもありました。あなたは最近、近くの川とつきあってますか？身近な川には今どんな自然があるのだろう。むかし遊んだあのふるさとの川はどんなふうになっているんだろう。川に行ってみましょう。きっといろいろな発見があるはずですよ。



太陽の熱によって海や川、地面などからたえず水が蒸発しています。それが雲になり雨や雪となって地上に降ってきます。降った水は地表を流れる川となったり地下にしみこんで地下水となって海にそそぎこみます。川はこの動きの中の一部なのです。

## 観察の注意点

川に行く日や前の日の天気はどうでしょう。その日が晴れていても、前の日まで大雨が降っていると、川が増水して危険なことがあります。また、川の上流で大雨が降っていると、下流で洪水になることもあります。ふだんはやさしい流れだったり、場所によってはほとんど水が流れない川も、一変してしまいます。天気予報やその川に詳しい地元の人のお話を聞きましょう。川はそれぞれに個性があります。長年その川の近くに住んでいる人は、その川の性格をよく知っています。注意をされたら従うのが一番です。また、植物が生えていない川原などは、増水したら、必ず川の流れになるところです。植物が生えていても、大水の場合にはそこも流れになります。そういうところでも生きられる植物なのです。自然を観察することは、安全にもつながります。

### 気をつけよう

ひとりだけでかけるのはやめよう。特に夜はだれかといっしょにかけよう。



### 気をつけよう

てっぽう水やダム放流で水かさが増えることがあるので、特に中州に入るときは逃げ道を考えておこう。

### 気をつけよう

夏の川原は日よげがない。日しゃ病に気をつけよう。



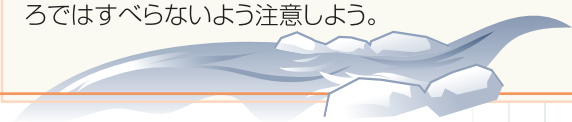
### 気をつけよう

川原でピンを割ったり、なるべくはだしで歩かないようにしよう。



### 気をつけよう

水の流れの力は驚くほど強い。流れの早いところではすべらないよう注意しよう。



## 観察のポイント

川の中にはどんな魚がいるのでしょうか。

川の中をのぞいたり、釣りをしている人のバケツの中を見せてもらったりしてみましょう。夏であれば、水中メガネで水の中をのぞいてみるのもいいかもしれません。深いところに行かないでも、くるぶしくらいの深さでも、いろいろな生き物の生活しているようすがみられます。でも流されないように気をつけましょう。

川の流れも見てみましょう。流れの早いところと、おそいところがありませんか？この両方の場所がないと、困ってしまう生き物がいます。早いところとおそいところを見比べてみましょう。

石や砂もみてみましょう。川原の石はどんな石でしょう？大きな石もありますか。それは、最初からここにあったのだろうか？それともどこからやってきたのかな？川底の砂が流れて動いていませんか？石の色はどうでしょう？

川の流れの働きがわかります。いろいろな形の石を探してきて、いろいろなものに見立てたり、色をつけたりして、展示会をするのもおもしろいですね。

